



今号では取手市産のトマトを特集し、オリジナルブランドや農産物直売所の情報のほか、ハウストマトの生育の過程も紹介します。市内の生産者を応援するため、地元育ちの真っ赤なトマトを食べてみませんか。

☎ 農政課 ☎ 内線 2111



SDGs17の目標
12 つくる責任つかう責任

取手市は ^{エスディージーズ}SDGs の取り組みを推進しています。特集記事に関連するアイコンを掲載します。

知る とりでのトマト

市内で栽培されているハウストマトは、市で唯一、県の青果物銘柄推進産地の指定を受けています。地元で活躍する生産者と併せて紹介します。

▶市内でハウストマトを生産・出荷 藤代ハウス研究会

旧藤代町地域の生産者が集まり立ち上げた研究会で、現在7軒の生産者が所属しています。お互いのハウスを回っての現地研修など、栽培に関する知識を共有し合って研究を重ねています。

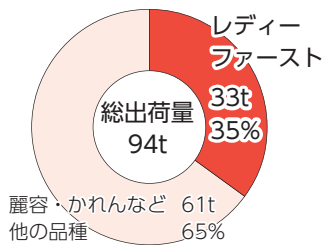
●市内オリジナルブランド「藤代トマト美人。」

平成14年ごろ誕生した藤代ハウス研究会のオリジナルブランドで、味を印象的に伝えるため「美人」と例えたことに由来します。栽培されている品種の中では、栽培の難易度が高く、全国的にも珍しい「レディーファースト」が主力です。



●昨年度の出荷量は94t

昨年度、藤代ハウス研究会の出荷量は94t。そのうち約35%に当たる33tがレディーファーストです。「麗容」や「かれん」などの品種も栽培されています。(JA茨城みなみ調べ)



茨城県の青果物銘柄推進産地に指定されています

JA茨城みなみ施設園芸部会(取手市とつくばみらい市のトマト生産出荷団体)は、県の青果物銘柄推進産地*に指定されています。施設園芸部会には藤代ハウス研究会のメンバーも所属。生産者全員が、環境に配慮した栽培に取り組んでいます。

※市場販売額が高いなど、県を代表する産地に与えられる「茨城県青果物銘柄産地」の指定を目指し、産地の発展に取り組む産地

地元で育ったトマトを地元の皆さんに

藤代ハウス研究会 会長 櫻井寿夫さん ^{としお}



寒さ対策や病気・害虫の防除など、毎日の管理が欠かせません。その中で、なるべく農業に頼らず栽培しています。手入れが大変な分、収穫できるとうれいですし、安心します。これも、妻や両親・周囲の方の支えがあるからこそ。毎年楽しみにしてくれている方からの声も励みになっています。相棒であり家族のようなトマトを、ぜひ皆さんに食べてもらいたいです。

食べる とりでのトマト

市内にある農産物直売所を紹介します。とりでのトマトを食べてみたい方は、一度足を運んでみてください！

▶JA茨城みなみ農産物直売所「夢とりで」 ☎ 夢とりで ☎ 84-6661

夢とりでは市内の農家が生産した採れたての農産物を中心に販売する直売所で、米・野菜・加工品などを取り扱っています。



住所 桑原^{くわばら}242-1
営業時間 2～10月…9:30～18:00
11～1月…9:30～17:30
※当面の間9:30～17:00
定休日 水曜日



今回紹介したトマト以外にも、ミニ・中玉トマトやカラフルなフルーツトマト、夏季には露地栽培のトマトも並びます。

▶取手市農産物直売所マップも活用してください

市内の農産物直売所の位置や販売者が分かる「取手市農産物直売所マップ」を作成しています。直売所の名称、住所、連絡先、主な販売物などの詳細が掲載されています。



配布場所 取手庁舎、藤代庁舎、各公民館など
◎市ホームページでも公開しています。



生産者直伝！おいしいトマトの見分け方

表面に筋が入っていて、ずっしりと重い実は、中身が詰まっている証拠。レディーファーストは、先端がとがっている物ほど甘みが強い傾向があります。

